

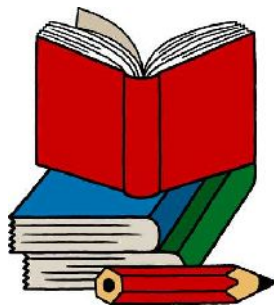
2015年度文化庁委託
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「使える」日本語を学ぶ！

活動事例集2015



公益財団法人 愛知県国際交流協会



愛知県は、全国でも3番目に外国人住民が多い県です(2015年12月末現在)。しかも、永住者、特別永住者、定住者、日本人の配偶者等といった、日本に長く住むと考えられる住民が多く、さらにその子どもや帰化された方など、日本国籍を持ってはいるけれど、ルーツは外国にあるという方も増えています。そして、今後も様々な背景をもつ外国人住民が増えていくことが予想されています。

そうした方たちが日本で安心して暮らしていくためには様々な支援が必要ですが、中でも「ことば」の問題は重要です。この地域でも100以上のボランティアによる日本語教室が開催され、多くの外国人住民が学んでいます。地域の日本語教室で外国人住民が日本語を学ぶ目的は、「自立し、安心して日本で暮らすことができるようになること」。そのために、日本語で「伝えることができた!」「理解することができた!」「やることができた!」など「できた!」瞬間をたくさんつくっていく手助けをすることが、日本語教室の役割なのかもしれません。外国人住民が暮らしやすい地域は、日本人にとっても暮らしやすい地域。地域の日本語教室の活動は、学習者の日本語スキルを伸ばすだけでなく、みんなにとって暮らしやすい地域を創る地域づくりの一環ともいえるのです。

地域の中で日本語教室が担っている役割がとても重要である現状を踏まえ、当協会では、教室活動をよりスキルアップするための「行動・体験型プログラム研修」を実施しています。本書は、その研修の中で、参加者が実践した「行動・体験型日本語教室活動」の内容を実践者自身がまとめたものです。日本語教室活動にこれぞという方法やプログラムがあるわけではありませんが、この「行動・体験型日本語教室活動」は、教室という閉じられた空間だけでなく、地域を巻き込んだ活動です。「行動・体験型」を実践することで、学習者にとってもボランティアにとっても教室にとっても地域にとっても世界がひろがるのでは、と期待しています。

日本語教育を実践されている方や関心がある方など多くの方が、本書を片手に「行動・体験型教室活動」を実践していただければ、とてもうれしく思います。

平成28年3月



はじめに

本書のつかいかた

行動・体験型プログラム研修を実施

第 1 章 行動・体験型教室活動！？

「使える」日本語とは？	2
「行動・体験型教室活動」のポイント	3
よくある疑問にお答えします	4

第 2 章 実践してみました

1. 目的地に行こう	6
2. 自転車のルールを知ろう	10
3. 買い物に行きましょう	14
4. 買いものをしよう	18
5. チラシを見て買い物をしよう	22
6. 日本の銀行の A T M をうまく使おう	28
7. ハローワークへ行ってみよう	32
8. 病気になったらどうしますか	36
9. 地震時の緊急対応	40
10. 地震について知ろう	44
11. 災害時に支援者になろう	48
★実践教室一覧	54

第 3 章 活動案とポスター

1. 目的地に行こう	56
2. 自転車のルールを知ろう	58
3. 買い物に行きましょう	60
4. 買いものをしよう	62
5. チラシを見て買い物をしよう	64
6. 日本の銀行の A T M をうまく使おう	66
7. ハローワークへ行ってみよう	68
8. 病気になったらどうしますか	70
9. 地震時の緊急対応	72
10. 地震について知ろう	74
11. 災害時に支援者になろう	76

第1章 行動・体験型教室活動！？

「行動・体験型日本語教室活動」の概要、ポイントについて説明しています。学習者の状況やニーズや日本語レベルなどにあわせて、テキストによる学習などとも組み合わせながら、教室活動の流れを考えてみましょう。

第2章 実践してみました

11の活動事例をご紹介します。1つの事例は、4～6ページにまとまっています。うまくいったこともしなかったことも、実際に行ったとおりに掲載しています。とりあえず掲載してあるとおりにやってみるのもいいですし、「いやいやここはもっとこうの方が…」とアレンジするのも、あるいは事例を参考に他のテーマに挑戦してみるのもいいでしょう。第3章の活動案や文化庁作成の「標準的なカリキュラム案」も参考にしてみてください。

テーマ

プログラムを実践した教室の概要

プログラムの参加者

9 地震時の緊急対応

教室開催日：土曜日午後2時から
学習者：パキスタン・インド・カザフスタン・中国・ミャンマー・ブラジル・インドなど。
レベル：リバイバルから上級まで

学習者：12人（パキスタン・インド・カザフスタン・中国・ミャンマー・ブラジル・インド）
ボランティア：9人

学習者の状況

- 学習者は愛知県内の様々な地域から来ている
- 仕事で来日の人・日本人と結婚して来日し、家族で住む人等々

目標

防災用品の必要性を知り、地震があったとき、自分の身を守れるようになる

学習者の声

地震に遭ったことがないので、怖い

活動の流れ

→ 活動案P.72 ボランティアP.73

1日目：9月26日（土）14:15～15:30（75分）		
活動1	15分	地震について知る
活動2	15分	地震が来たときの避難の体験をする
確認1	45分	第1回の活動をふりかえる
2日目：10月31日（土）14:15～15:30（75分）		
活動3	15分	なぜ防災用品が必要かを学ぶ
活動4	30分	防災用品を学ぶ
確認2	45分	2回の活動をふりかえり、防災の大切さに気づく

事前の準備・下調べ

- 地震に関する言葉を調べる
- 防災用品・非常食を準備する

カリキュラム案 P.22～25
教材例集 P.55～71

40

学習者の状況や声を踏まえて目標を設定した上、プログラムのテーマを決定しました。

実践活動を実施する前に作成した初期の段階の活動案と、実践活動をまとめたポスターです。

プログラムの流れです。実際に作成された活動案（第3章）を基に、わかりやすく編集しました。

文化庁作成の『「生活者としての外国人」に対する標準的なカリキュラム案』とその『教材例集』の関連するページです。

活動の中で使う教材やワークシートの作成など以外に、活動前に準備したことを挙げています。

活動の「ふりかえり」です。ボランティアによるこのプログラム全体のふりかえりと区別するために「確認」ということばを使っています。活動をふりかえり、そこで出てきた日本語を確認する時間です。

第3章 活動案とポスター

第2章の活動を実践する前に作成した「活動案」と、実践後成果発表のプレゼンテーションをするときに作成した「ポスター」をご紹介します。最初に作成した活動案を基に、研修の中でいろいろ練りこんで実践しているので、第2章の内容とは変わっている部分もあります。第2章と比較して見ていただくと、よりわかりやすいと思います。



学習者からこんな日本語ができました

活動の中で、学習者から発せられた日本語を拾いました。



こんなことばを覚えました

テーマに関連してボランティアや協力者が準備しておいた語彙等



こんな日本語を伝えました

活動の中で、ボランティアや外部協力者が発した日本語を挙げました。



ここがポイント!
こんなこともできる!

活動のふりかえりで、プログラム研修の講師や参加者から出されたコメント

実践活動

活動 1 地震について知る

1. 地震とはどういうものか、説明を聞きました。
2. 早期行動について説明を聞きました。

活動 2 地震が来たときの避難の体験をする

地震が来たときの身の守り方と建物の安全な場所への避難を体験しました。

学習者からこんな日本語ができました

- ☆ 日本で初めて地震を体験してビックリした。
- ☆ 良かった。勉強になった。

こんな日本語を伝えました

- ★ 揺れがおさまるまでは、机の下などで、頭と身体を守り、揺れがおさまったら、安全な場所へ避難しましょう。

学習者からこんな日本語ができました

- ☆ 大丈夫です。

こんなこともできる!

実際に体を使って行動・体験することで、地震への心構えができます。乗り物に乗っているときや別の場所ではどうすればいいかを話してあつてくのもいいですね。

41

プログラムの詳細です。

活動中、学習者、ボランティアや地域の方たちから発せられた日本語が挙げてあります。実はここが重要! 地域の中で実際に使われている日本語を学びましょう。

確認 2

2回の活動をふりかえり、防災の大切さに気づく

2回の活動をふりかえって、どんなことがわかったか、どんなことを思ったか、話し合いました。

学習者からこんな日本語ができました

- ☆ 日本では地震が多い事を知り、水と食料品を用意したい。
- ☆ 避難用品 (ビニールシート・イロ) を知った。
- ☆ 高層マンションに住んでいるから、ロープが必要だとわかった。

実践を振り返って～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと～

- ◇ 日本は地震が多いことを学習者が理解でき、地震の時にはどの様に自分の身を守るかを学んだ。
- ◇ 大地震では、ライフラインも失われる為、防災用品の準備と必要性に学習者が気づいてくれた。
- ◇ 実践活動は、日本を知り、日本に親しむきっかけにはなると思うが、日本語の勉強に効果があるか? (ボランティアの準備に掛ける時間等の負担に比べて)
- ◇ 今回は実践活動の手順や内容について初めてのことで、このように難しく学んだが、次回からはあまり書類にこだわらないで、もっとシンプルに行いたい。
- ◇ 防災ボランティアを活用すると、もっと楽に実践したものになると気づいた。
- ◇ 避難教室はイベント性があるから、学習者とボランティアが打ち解けあえる。

大切だと思ったこと

- 発表を想定して、行動実践講座のテーマを選択・決定する。
- 実践を始める前には、ボランティアは十分な準備をする時間が必要。

43

プログラムを実践して、ボランティアが大切だと思ったポイントです。

プログラムを実施したボランティア自身のふりかえりです。活動の中のふりかえりとは区別しましょう。

行動・体験型プログラム研修を実施

愛知県国際交流協会では、2014年度に引き続き2015年度も行動・体験型プログラム研修「行動・体験型の教室活動をつくる」を実施しました。この研修には、7教室から31人のボランティアが参加し、8回にわたる講義やワークショップを通して、「行動・体験型」の活動案を作成し、実践しました。

「行動・体験型教室活動」とはどんな活動なのかを理解し体感したことももちろん大切ですが、この研修を通して、普段あまりコミュニケーションがとれていなかった同じ教室のボランティア同士じっくり話をしたり、あるいは他の教室のノウハウを聞いたり、そして何よりも普段の自分自身の活動をふりかえるきっかけになったことが、今後のよりステップアップした活動につながっていくのではないかと考えています。

回	日程	内 容	
1	6/20 (土)	オリエンテーション 「標準的なカリキュラム案」とは?	文化庁の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案等について概要を知り、その「考え方」と「行動・体験中心の活動」とは何かを理解する。また、活動の効果をどう評価するか考える。
2	6/27 (土)	活動のつくり方1 学習者に役立つ活動テーマとは?	「行動・体験型」の活動テーマの選び方を確認し、テーマからどのような手順を経て活動をつくるかについて理解する。
3	7/4 (土)	活動のつくり方2 活動案をつくらう!	1つのテーマの活動をどの程度の時間をかけて行うのかを考え、その具体的な流れと素材・教材について理解を深める。
4	7/18 (土)	活動のつくり方3 実践に向けて	それぞれの活動現場の条件などを確認し、実践に向けた活動案を考える。
	7~8月	モデル教室参加	2014年度に実施された行動・体験型教室活動のモデル教室に参加し、実践に向けてさらに理解を深める。 <テーマ> ○ チラシを使って買い物しよう ○ 図書館を利用しよう
5	9/5 (土)	実践活動計画を立てる!	モデル教室をふりかえり、それぞれの教室で実施可能な活動計画を立て、手順や準備する素材・教材について考える。
6	9/19 (土)	実践活動計画を共有しよう	各自が作成した実践活動計画、素材・教材を共有し、活動の内容をさらに検討する。
	9~10月	実践活動の実施と見学	活動計画を基に、それぞれの教室で活動を実践するとともに、他の教室の実践活動を見学する。
7	10/31 (土)	実践活動のふりかえり	実践活動をふりかえり、行動体験型の活動の意義と方法を再認識する。
8	11/7 (土)	実践活動の発表 ふりかえり	ポスターセッションによる発表を通して実践活動を共有するとともに、さらによりよい活動を目指すアイデアや改善点などを出し合う。